

| 科目名 | | | | 授業の種類 | 授業担当者 |
|---|------------------|--|---|-------|--------------|
| 子どもの保健 | | | | 講義 | 青木由美子 |
| 学年 | 単位 | 時間数 | 授業回数 | 履修時期 | 選択・必修 |
| 1 | 2 | 30 | 15 | 前期 | 幼免:選択 保育士:必修 |
| [授業の目的・ねらい] ・将来の保育士や幼児教育を目指す学生が、日常の子どもの保健の実践のため、小児科学の基礎、および母子関係・子どもをめぐる社会環境、社会制度について学ぶことを目的とする。 ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 ・子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 ・子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 ・子どもの疾病とその予防法及び各職種間の連携、協働の必要性の適切な対応について理解する。 | | | | | |
| [授業全体の内容と概要] ・テキスト中心に受講者とのディスカッションを入れながら授業を進める。 | | | | | |
| [受講上の注意事項] ・前向きに授業に参加し、理解を深めること | | | | | |
| [使用テキスト] 子どもの保健テキスト 診断と治療社 | | | [評価基準] 試験、授業への取り組み姿勢、授業出欠席等を合わせて、総合評価を行う。 | | |
| [授業の日程と各回のテーマ・授業内容] | | | | | |
| 回 | 項目 | | 授業内容 | | |
| 1 | 子どもの心身の健康と保健の意義 | | 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的 健康の概念と健康指標 | | |
| 2 | 子どもの心身の健康と保健の意義 | | 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 地域における保健活動と子ども虐待防止 | | |
| 3 | 子どもの身体的発育・発達と保健 | | 身体発育及び運動機能の発達と保健 | | |
| 4 | 子どもの身体的発育・発達と保健 | | 生理機能の発達と保健 | | |
| 5 | 子どもの身体的発育・発達と保健 | | 精神機能 情緒・行動発達 | | |
| 6 | 子どもの心身の健康状態とその把握 | | 健康状態の観察 | | |
| 7 | 子どもの心身の健康状態とその把握 | | 心身の不調当の早期発見 | | |
| 8 | 子どもの心身の健康状態とその把握 | | 発育・発達の把握と健康診断 保護者との情報共有 | | |
| 9 | 子どもの疾病予防及び適切な対応 | | 小児の病気の特徴 保育の現場でよくある疾患Ⅰ | | |
| 10 | 子どもの疾病予防及び適切な対応 | | 保育の現場でよくある疾患Ⅱ | | |
| 11 | 子どもの疾病予防及び適切な対応 | | 保育の現場でよくある疾患Ⅲ | | |
| 12 | 子どもの精神保健 | | 子どもの生活環境と精神保健 心の健康とその課題 | | |
| 13 | 環境と衛生管理・安全教育 | | 保育の環境 衛生管理 事故防止と安全対策 | | |
| 14 | 健康及び安全の実施体制 | | 職員間の連携と組織的取り組み 母子保健対策 家庭・専門機関・地域との連携 | | |
| 15 | まとめ | | まとめと試験 | | |
| 実務教員としての経歴 | | 看護師の資格を有し、急性期病院での実務経験が40年以上あり、その間、看護学校の講師の経験が4年ある。 | | | |
| 実務経験と授業の関連 | | 看護師の資格を活かし、将来保育士を目指す学生たちに必要な保健の知識と技術を養う。 | | | |